

法後考の初記後編

特

遠13

466

5





亥のあひのききも。あつびあふせの縁をせよ。こい  
 身のうさぎ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 うねらうらる。まじなその日もせし。さうらる。  
 々まじ。しぎやとて。おまらぬ。あはとちまよ。格  
 みちやもひさぐめて。姉のおまらぬ。あはんとて。  
 こまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 ちがう。山の着をさし。こまらぬ。夜ふ入てやうく  
 うさぎ  
 おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵

見んく  
 せん牛日ぐじしよりの女あて。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 めくあつらあひらうへ。がふ世兵。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 さうのちがう。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 知て。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 よろこび。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 姉の子こ。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵  
 のうらあつらあひらうへ。がふ世兵。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵。おまらぬ。うぐいあつらあひらうへ。がふ世兵

あつび多金高賣とをためさせ  
いんや せんばい  
せんばい

せりして。まろあめの上列画箱をよる。仕送りつりうす  
あまね

け合。ち名店小路。店をうり。長後。万端の入用。  
まじや ひろまうど  
よる  
かん  
ばんらん

捨り糸をこりて。その人止るをちういそぐ。ゆき中。  
たふと

比のそのの負心尼より。日毎に仕きこりて。捨り  
ひのそのの  
ひごと

まのりて。をゆはちりて。根をとおる。おる  
おる

### 九會目

浮きまの仇惚ハ雪の  
おとろとあまねが  
御

南もあまねと一月のあまひ。一時おひひくすの  
あまね

く。ゆきまを。眼のまづ。ひも。ゆきま。あまね  
く  
まづ  
ひも  
ゆきま  
あまね

く。あまねを。そのこのよろこび。大なる。ゆきま  
く  
あまね  
そのこの  
よろこび  
大なる  
ゆきま

り。日頃。ゆきま。大師のゆきま。ゆきま。ゆきま  
り  
ひごろ  
ゆきま  
だいし  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま

さん。ゆきま。そのゆきま。日。ゆきま。ゆきま  
さん  
ゆきま  
そのゆきま  
日  
ゆきま  
ゆきま

捨り。ゆきま。ゆきま。ゆきま。ゆきま。ゆきま  
捨り  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま

ゆきま。ゆきま。ゆきま。ゆきま。ゆきま。ゆきま  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま

あまね。ゆきま。ゆきま。ゆきま。ゆきま。ゆきま  
あまね  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま  
ゆきま













日暮里  
花見之  
景色

於  
武久



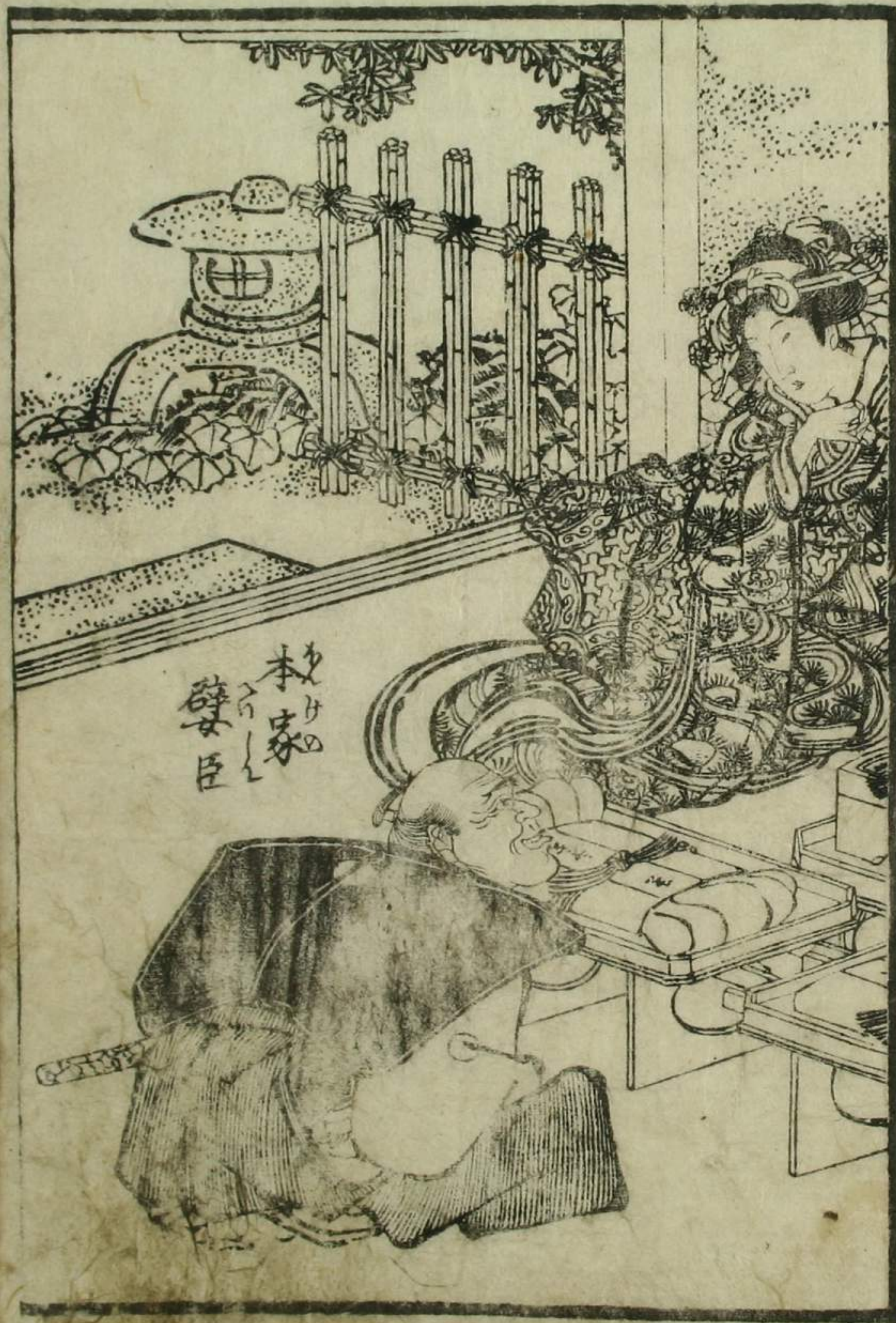


あくまのやのな<sup>かみ</sup>を。いふにせうたあめもかひなく。  
 ちうくはらう。いふにせうたあめもかひなく。  
 こそぞ。身をおぢよりあひる。つるおまは父の<sup>おぢ</sup>  
 山<sup>やま</sup>をうけてあせしんその<sup>おぢ</sup>あ後の<sup>あひ</sup>梓<sup>すゝ</sup>。あひ<sup>あひ</sup>  
 をさうぞくちせむい。父の<sup>おぢ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>  
 かへていふにせうたあめもかひなく。あひ<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>もあ  
 ま。父の<sup>おぢ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>  
 へひらうの<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>

むらあのおま。あひ<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>  
 いひらう。いふにせうたあめもかひなく。あひ<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>  
 うま。あひ<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>  
 さあぐの<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>  
 こそぞ。あひ<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>  
 身とまひひせん。あひ<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>  
 一の<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>  
 あひ<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>あ<sup>あひ</sup>は<sup>あひ</sup>とてあひ<sup>あひ</sup>













務の由る事。とこのわろの由る事。び拙劣たる人の味小  
ゆらぐやなしくぞんト申す。當年七十二さうめん。筆小まう  
る事。あつがあらむをさうせめて。ゆきまらむ事とも。よん取  
ちりたきあらせ。名跡をゆづるべき時せがれもあざうませぬ。故  
よまう。存角ぞう。執しごと縁とん。ことごと。場かんまき。結むす。こと  
とも。もる。縁つら。今。あつ。ふ。弟つと。て。の。あつ。ま。を。う。が。あ。る。が。ど  
ち。ま。ふ。ぞ。ん。ど。も。ま。と。こ。の。れ。の。あ。つ。ま。が。う。と。い。ひ。あ。つ。の  
お。が。り。あ。つ。質ちか。か。ふ。あ。つ。ま。う。の。ま。が。う。と。い。ひ。ま。ま。と。い。ひ。あ。つ。  
る。さ。る。今。あ。つ。の。刺さ。さ。も。こ。の。ま。あ。つ。の。け。あ。つ。  
この。ま。の。人。の。う。げ。あ。つ。こと。が。以た。縁えん。と。る。う。て。あ。つ。と。お  
ま。ま。の。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と  
し。ま。ま。の。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と  
た。れ。る。あ。つ。が。う。ま。ま。の。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と  
か。の。トト。の。ま。ま。の。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と  
け。ま。ま。の。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と  
と。ま。ま。の。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と  
と。ま。ま。の。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と。ま。が。あ。つ。と

のあやうりうりちちあせをひかせり。いふたかたつてあふいひあ

とまへし。あふいひあとあふいひあのあふいひあのあふいひあのあふいひあのあふいひあ

るがうそあふいひあのあふいひあのあふいひあのあふいひあのあふいひあのあふいひあ

ちりうりちうりちうりちうりちうりちうりちうりちうりちうりちうりちうりち

とるいふあふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

いさるいふあふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

ひさくといふあふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ

あふいひああふいひああふいひああふいひああふいひああふいひあ





貞正尼



池之端  
別庄

喜美

捨五郎



えんぶ。  
このちの御後えんぶは、その猫ねこのまゝにひゆ入ひゆいりさうまはも一十  
とわうけ合あうう人ひと世よのひろくまねとあるが、きんぐらう  
とりよかのころまじう後のちにう入いりこづひゆまひゆまさるるく  
まゝんまゝんお後のちせん村むらの御ごとまねれ一ひとれとま中のねこの  
るるふこころまじうまゝに合あううよひトとねれ  
てまゝにう入いりこづひゆまひゆまさるるく  
ていせもまじうまゝに合あううよひトとねれ  
矢や久く馬ば後のちのう入いりこづひゆまひゆまさるるく  
射やゆ一ひと始はじ終つひとまねれ。拾ひろうう本ほんの御ごとまねれ  
射やゆ一ひと始はじ終つひとまねれ。拾ひろうう本ほんの御ごとまねれ

かんごのう入いりこづひゆまひゆまさるるく  
まゝんまゝんお後のちせん村むらの御ごとまねれ一ひとれとま中のねこの  
るるふこころまじうまゝに合あううよひトとねれ  
てまゝにう入いりこづひゆまひゆまさるるく  
ていせもまじうまゝに合あううよひトとねれ  
矢や久く馬ば後のちのう入いりこづひゆまひゆまさるるく  
射やゆ一ひと始はじ終つひとまねれ。拾ひろうう本ほんの御ごとまねれ  
射やゆ一ひと始はじ終つひとまねれ。拾ひろうう本ほんの御ごとまねれ

まのひまのひ 吉長きちながをさあへて結納むすなはのちうたまたまさうとて  
 ねもねももさうさうううくく千秋ちゅうしゅう五葉ごはつううひひああめめでで人ひとののびび乃  
 よろよろびびちちううううぞぞ。ああままししがが姉あねああままいいくくいいまま。一いちかかの  
 捨すてめめううぐぐせせいいああでで。ああままやや小せうままををおおひひくくたた。ああききくくのこ子こ規ぎ  
 顔かほのうここふふああううととひひままううてて名なねねくく。ままててああままが  
 後のち見みててああままのま早はや夜よのまききううががららととままごごめめななるる。ふ  
 ええにに出でししううううつつががててままええきき。ああままららのうぐぐのまをを  
 ああままのうくく。ああままのまひひううああままららのまままででああまま

ああままももでで難なんかかりり苦くぢぢせせもも。つつのおおお天あまのめががいい  
 ええとと。今いまのあああのこのこいいんんうう。ああままららのむむむままごご。つつ  
 玉たまのいれい一いち子こととままけけてて子こ孫まのたのあらら。ああままらら。  
 祖そ父ふままららのまのまららうう。いいままをを死しよよううもも。ああままのまままをを死し  
 ちちててううごごととのままま也也。後のちままもも於おままららとと和わ執しやく大たい。  
 いいままもも男おとこ子こととままけけてて福ふくのらのあらら者もの。一いちままのあららのあらら  
 りりううううひひふふ。いいままももままととままゆゆ。いいままごごめめててままいい  
 清せい鏡きやう堂だうのこ初はつ花はな後のち編ひん下かをを終はつ



一本いちぽん 駢ま右衛門みぎゑもん 横行こぎまき 雑話ざつわ

遠とち 中ちゆう 白波しろなみ

十返舎一九作

葛くわ 飾しやく 戴たい 斗と 画ゑ

世小冊の一巻 終巻の東海道を横行して所々の珍鏡奇縁ありて周々を驚くせらる西向と書あり

京都 堀川通

植 村藤右衛門

大坂 安堂寺町

秋田屋 太右衛門

書林

名古屋 永安寺町

菱屋 金兵衛

江戸 小傳馬町

丁子屋 平兵衛

同 入形町通

鶴屋 金助



